

北光だより

特別号

2024.9.27

全国学力・学習状況調査の結果 についてお知らせします



この調査は、本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法、生活面の改善などに役立てることを目的としています。

8月に文部科学省から結果が送られてきましたので、その概要をお知らせします。今後学校では、「各教科における改善点」をもとに全学年で取組を進めていきます。また、各ご家庭でも後述する「ご家庭へのお願い」をお読みいただき、ご指導・ご協力をお願いいたします。

- ・実施日 令和6年4月18日（木） 教科に関する問題（全国一斉）
4月23日（火） 質問紙調査（オンライン）
- ・対象 全国の小学校6年生及び中学3年生
- ・調査内容 ①教科に関する問題（国語・算数）
主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

※調査に参加した6年生には、学級において答え合わせや問題の解説を行います。

本校の状況(全国・県との比較)

- ・本校の結果は、国語・算数ともに、全国平均・県平均とほぼ同等でした。
(全国正答率の $\pm 5\%$ の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であるという分析)

各教科の結果

(◎成果 ●課題)



国語

◎内容別の正答率をみると、「書くこと」が全国及び県を上回っています。

「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き方を工夫すること」ができています。

◎選択式、記述式の問題の正答率が全国及び県とほぼ同等です。

●「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり意識付けたりして、伝え合う内容を検討すること」等に課題があります。

算数

◎領域別の正答率をみると、「図形」が全国及び県を上回っています。「数と計算」、「変化と関係」の領域は、ほぼ同等です。

「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと」ができています。また、「図形の見取図について理解し、かくこと」ができています。

◎記述式の問題の正答率が全国及び県とほぼ同等です。「求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること」ができています。選択式、短答式の問題の正答率が全国及び県を上回っています。

●「グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する力」や「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する力」に課題があります。

★改善点★

基礎的・基本的な知識・技能の定着（漢字や計算等）については、単にドリル等を繰り返すことではなく、問題を解決する場面をより多く設定し、その中で必要な知識及び技能を活用しながら定着できるようにする。

【国語】

☆場面や状況を考慮するなかで、集めた材料を話す目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりするような学習の機会を増やす。

☆登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して想像した「人物像」や、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基に、その世界や人物像を豊かに想像することで捉えた「全体像」と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていく学習を行う。

【算数】

☆複数系列のグラフや組み合わせたグラフについて特徴を読み取る学習の機会を増やす。また、解決したい問題に応じて定めた観点によって、データを表に分類整理したり、グラフにまとめたりすることで、特徴や傾向を捉え考察する学習を行う。

☆速さなどの単位量当たりの大きさについて、単位時間当たりに移動する長さとして捉えたり、一定の長さを移動するのにかかる時間として捉えたりするなど、目的に応じた処理の仕方を工夫する学習を行う。



質問紙調査の結果

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したもので、全部で63項目あります。本校の特徴は次のとおりです。(なお、文中の「肯定的」というのは、問いに対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えている場合をいいます。)

生活について

- 「朝食を食べる、決まった時間に就寝・起床をする」など、毎日の生活基盤がきちんとされているご家庭の多いことがうかがわれます。

自分や友だち・学級について

- 「自分にはよいところがあると思うか」の問いに肯定的に答えている児童が8割を超え、高い自己有用感をもっていることがわかります。
- 「将来の夢や目標をもっているか」「人の役に立つ人間になりたいと思うか」の問いに肯定的に答えている児童が8割を超えています。
- 「学校に行くのは楽しいと思うか」「友達関係に満足しているか」の問いに肯定的に答えた児童が8割を超え、安定した学校生活を送れていることがうかがえます。

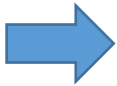
学習について

- 平日の授業時間以外の勉強時間は、「30分～1時間」が4割、次いで、「1時間～2時間」が3割、「2時間～3時間」「30分以下」がそれぞれ1割程度となっています。土・日などの休日の勉強時間は、「1時間以下」の児童が5割います。
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」と思う児童の割合は6割程度で、県および全国より低いです。
- 「国語・算数の勉強は大切だと思うか」の問いには、9割以上の児童が肯定的に答えています。

地域や社会への関心について

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と思う児童の割合は7割程度で、県および全国より低いです。
- 「新聞を読んでいるか」の問いについて、「全く読まない」と答えた児童は7割を超え、依然として低い傾向にあります。





★改善点★

☆すべての学習活動において「見通し」と「振り返り」を大切にする。児童が自分なりに「何を」「どのように」学ぶのかを理解したうえで、活動の最後に「何が分かったか」「何ができるようになったか」を振り返ることで、日々の確かな学力を育む指導に努める。

☆「各教科等で学んだことをいかしながら、自分の考えをまとめる機会」や、「学級の友達との間で話し合うことで、自分の考えを深めたり広げたりする機会」をもつことで、児童一人ひとりが自主的・主体的に活動し、充実感や達成感を得ることのできるような指導に努める。

☆「情報モラル教育」を、引き続き積極的に行う。また、同地区の中学校の定期テスト等にあわせて「NO テレビ・ゲーム・スマホDay」の実施機会を設定し、取組を推進する。

ご家庭へお願い

○児童は意欲的に学習に取り組もうとしています。また、ノート指導や一人一台端末（クロムブック）の活用などを通じて、授業に取り組む姿勢も日々向上しています。しかしながら、確実に身につけてほしい基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分な現状もあります。

「家庭学習の手引き」等を参考にしながら、今後も家庭学習の習慣化へのご協力をお願いします。

○学力と生活習慣は密接に関係しています。「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣を、今後ともご家庭で継続していただきますよう、お願いします。

○学校では、ICT機器を積極的に活用しています。その際に、情報モラル等についても指導しています。ご家庭でもスマートフォン、ゲーム機等の使用時のルールづくりをお子さんと一緒にすすめ、ご家庭と学校で連携して有効な活用できるようにご協力をお願いします。

